

I 「目黒区学力調査」の概要

1 調査の趣旨

目黒区立小・中学校の児童・生徒に「学力調査」を実施し、児童・生徒の学習状況を組織的・継続的に調査・分析するとともに、各学校の指導法やカリキュラムの改善・充実を図り、学力の定着・向上を目指す。

なお、本調査は、目黒区立小学校の第2学年～第6学年の児童及び目黒区立中学校の全学年生徒を対象に実施された。

2 調査の内容

(1) 調査の対象学年及び対象生徒数（本校）

	1 年	2 年	3 年
対象数	1 1 3 人	1 2 9 人	1 5 0 人
実施数	1 1 2 人	1 2 4 人	1 4 7 人
受検率	9 9, 1 %	9 6, 1 %	9 8, 0 %

(2) 調査内容と実施教科

① 学習指導要領に示された目標の達成状況（観点別学習状況）

② 生徒の学習に関する意識など

1 年 意識調査、国語、数学、社会、理科

2 年 意識調査、国語、数学、英語、社会、理科

3 年 意識調査、国語、数学、英語、社会、理科

(3) 実施日

平成20年4月11日（金）

II 目黒区学力調査に基づく授業改善プラン

学校教育目標

自らの課題を追求し、主体的に生きる個性豊かな生徒の育成を図る。

- ア 責任感のある生徒を育成する
- イ 思いやりのある生徒を育成する
- ウ 実行力のある生徒を育成する



教育課程届における指導の重点

- 1 基礎的・基本的な内容を確実に身に付けさせるために、生徒が興味や関心をもって授業に取り組むよう指導の工夫及び学習内容の一層の精選・明確化を図るとともに学習指導員やALTを積極的に活用していく。
- 2 グループ学習や発表活動、スピーチ、討論、漢字・英単語コンテストなど多様な学習活動を通して、自ら学ぶ意欲を高める。また、コンピュータなどの情報機器を効果的に活用することにより学習効果の向上を図る。
- 3 選択教科の内容を充実させる。特に国語、数学、英語については基礎的コースと発展的コースに分け、生徒の能力に応じて対応する。また、校外での体験学習も実施できるよう工夫する。

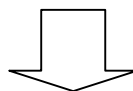


本校の学力向上に向けた視点（学校全体）

指導方法等の工夫	教育課程編成上の工夫	校内研修・研究の工夫	評価の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫
思考と発見を繰り返す過程において、生徒自ら主体的に学習できるように工夫する。	総合的な学習の時間のまとめどりや、行事の見直しを行うことにより、必修教科の時間数を確保する。	互いの授業を公開し、教員相互で授業の評価をする。また、区や都の研修に積極的に参加をする。	より客観性の高い評価を目指し、生徒がさらなる目標をもてるように工夫する。	公開授業や授業参観、見学会等を実施することにより、学校情報の発信とともに家庭・地域からの意見を伺う機会とする。

区学力調査の結果から見られる成果と課題

国語	数学	英語	社会	理科
<p>話す力・聞く力：目標値からは良好といえる。授業を通して、より一層話すこと・聞くことへの能力向上に努めていく。</p> <p>読む力：目標値からは良好といえる。</p> <p>書く力：さらに小論文の書き方や、感想文を折に触れては書かせるなど日常的に書くことを習慣化させていく。</p>	<p>目標値を大きく上回りとても良好である。数学的な表現や処理は高い。数学的な見方や考え方はやや課題がみられる。定着を図る為の反復練習が必要である。また、問題解決型の課題を多く提示し、生徒自らが問題を解決しながら理解を深めていく時間を増やしていき、定着を図る。</p>		<p>教科全体においては、目標値を大きく上回りとても良好である。観察・資料活用の技能・表現についての理解にやや課題が見られる。今後は知識の定着を図るとともに、資料集を活用し、応用力を高めることが課題である。</p>	<p>「基礎」「応用」の数値は、目標値を大きく上回っている。科学的な思考においては特に良好である。「観察・実験の技能・表現」の観点において、到達度にやや課題がみられた。</p>

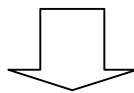


学力向上のためのポイント

国語	数学	英語	社会	理科
<p>朝の読書活動の充実や新聞を日常的に読むことを勧めるなど、広い範囲から情報を集め、効果的に活用する能力を身に付けさせる。</p>	<p>身のまわりの事象を題材とすることにより、数学的な活動に対する興味や関心を高め、論理的な思考の経験を積ませていく。</p>	<p>英語をできるだけたくさん聞く機会を設定することが「聞くこと」の指導には最重要である。そのためには、ALT（外国人英語指導員）とのティームティーチングの工夫を図る。</p>	<p>新聞やテレビ等の視聴覚教材を活用する等、身近な題材を教材に取り入れることにより、政治と自分たちの生活との関わりを実感させるよう、指導の工夫を図る。</p>	<p>「観察・実験の技能・表現」の観点については、実際に実験をする機会をなるべく多くもつ。また、自作プリントを活用し、実験器具の正しい使い方を学習する。</p>

区学力調査の結果から見られる成果と課題

国語	数学	英語	社会	理科
<p>昨年度の達成率と比較し、教科総合で向上している。特に「基礎」においてはほぼ全員が達成している。「書く力」「読む力」においてやや課題がみられる。</p>	<p>昨年度の達成率と比較し、教科総合で向上している。昨年度課題であった「応用」も大きく向上したが、さらなる向上を目指すことが課題である。</p>	<p>基礎・応用とも、目標値を大きく上回り、たいへん良好である。「理解」の観点では、生徒が意欲的に英文理解に取り組むための指導の工夫を図ることが重要である。</p>	<p>昨年度の達成率と比較し、「応用」が大きく向上している。しかし、「社会的な思考・判断」「基礎」においては課題がみられる。</p>	<p>昨年度の達成率と比較し、「観察・実験の技能・表現」において成果がみられる。しかし、「基礎」の定着において課題がみられる。</p>

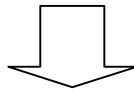


学力向上のためのポイント

国語	数学	英語	社会	理科
<p>書く力は、折りに触れ、書かせる作業を取り入れることで、個人差に対応していく。また、各生徒の興味や関心に応じた教材を使用し、読む力の向上につなげる。</p>	<p>応用力を高めるために、読解力を養う。そのためには、ねらいを明確にした文章題を提示し、数量の取り出し方や関係の調べ方を徹底し、数学的な表現(式・グラフ・表)の体験的な活動を積ませる。</p>	<p>「理解」の能力を高めるために読む力を向上させる。そのために、さまざまな話題の英文に慣れさせることが重要である。また、語彙を増やすとともに、音読指導の充実を図っていく。</p>	<p>地図や資料集を活用して知識の定着を図り、思考力を高める。また、判断力を高めるために視聴覚教材や自作ワークシートを活用する。さらに、小テストを実施し、知識の定着に努める。</p>	<p>視覚教材や自作プリントを活用することにより、教科全般に関する生徒の興味や関心を高める。家庭学習についての指導も工夫するとともに、単元別テストを実施し、基礎力の定着を図る。</p>

区学力調査の結果から見られる成果と課題

国 語	数 学	英 語	社 会	理 科
昨年度の到達度と比べ「基礎」が向上した。観点別では「話す力・聞く力」「音声言語」が高い達成率である半面、「書く力」にやや課題がみられる。	昨年度の到達度と比べ、「応用」が大きく向上した。観点別では「数学的な見方や考え方」が大きく向上した。しかし、「数量、図形などについての知識・理解」に課題がみられる。	昨年度の到達度と比べ、「言語文化理解」「表現」「応用」が大きく向上した。これは、文意を適切に伝える指導や、語彙・文型・文法事項の定着を図る指導の成果である。	昨年度の到達度と比べ、教科総合で向上した。特に「応用」や社会的な判断・思考の結果は大きく向上した。幅広い知識の習得と見識を高めることが課題である。	昨年度の到達度と比べ、全ての観点で向上しており、概ね良好である。しかし、「観察・実験の技能・表現」についてはさらなる向上を目指す。



学力向上のためのポイント

国 語	数 学	英 語	社 会	理 科
自分の体験したことを、文字で表現する活動を短時間になるべく多く実施する。また、新聞作りや小論文を書く指導を通して、しっかりと自分の考えを持ちまとめる力を身につけさせる。	自作のワークシート等の副教材の工夫を図り、反復練習を重ねて、数量や図形の基礎的な概念や原理・法則の定着を目指す。	反復練習を適宜行い基礎力のさらなる定着を図る。表現の指導では、文を正確に書けることが重要である。そのためには、ALTを活用するとともに、文の構造を理解させるための文法指導の充実を図る。	生徒の興味関心を高める自作教材やビデオ等の視聴覚教材を活用し、自ら主体的に考え、判断できる授業展開を工夫する。また、新聞から時事的問題を取り上げ、ディスカッション形式の活動を行う。	「観察・実験の技能・表現」の観点については、実際に実験をする機会をなるべく多くもつ。また、自作のワークシートを活用し、実験前後の活動を工夫し、生徒の意識を高める。

Ⅲ 授業改善プラン

目黒区立第十中学校

